

氏名： 柴 真理子 (SHIBA Mariko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 博士(学術)(お茶の水女子大学 1996) /Ph.D
職名： 教授
専門分野： 舞踊学・舞踊教育学 / Dance Research and Dance Education
E-mail： shiba.mariko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

舞踊運動の感情価／体感(体性感覚)／場／コミュニケーション
Feeling Value of Dance Movements / Body Awareness / Ba / Communication

◆主要業績

総数(4)件

- ・舞踊運動の体感研究と身体心理学 人体科学 Vol.16, No.1 p.66-75.2007.7.
- ・“Modern Dance in Japan: The Dance Style of Fujii Koh” 表現文化研究 第7巻第2号 2007年度 神戸大学表現文化研究会 pp.169-183. 2008.3.
- ・3次元空中描画システムのダンスセラピーへの活用：信学技報 Vol.107 No.552 pp.21-24 電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーション基礎研究会 2008.3.
(川瀬新司・大崎章弘・金子哲治・三輪敬之・柴真理子・田中朱美)
- ・舞踊一人間の自己理解の呈示 「地球人」第6巻1号 p.52-57. 2008.2.

◆研究内容 / Research Pursuits

2006年度のModern Dance in Japan: The Influence of the Western Culture and What Japan Created on its Ownに続き、2007年度は“Modern Dance in Japan: The Dance Style of Fujii Koh”で日本のモダンダンスのダンススタイルを取り上げた。この論文は「劇場舞踊論」の講義内容の一部となった。

最近の研究の主要テーマは、舞踊の体感(body awareness of dance)をめぐるものである。2007年度には、舞踊における体感の意味について春木豊の身体心理学と対照しながら、それを中村雄二郎の共通感覚論に依拠して考察した。

また、早稲田大学の理工学部と共同で、精神病院入院中の患者さんに実践してきた3次元空中描画システムについて共同研究者が学会で発表した。

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部教育：

「劇場舞踊論」「劇場舞踊論実験演習」では、劇場舞踊がそれぞれの時代の社会事象を背景として他の芸術とどのような関わりを持ち、その中で舞踊は何を発信し、どのように受け止められてきたかを解説した。その上で、現代に生きる学生自身が、時代状況を把握し、人間と舞踊の関わりを多角的に捉え、様々な方法で舞踊にアプローチすることが可能になるように、演習では、舞踊をめぐるキーワード（身体・感性・イメージ・創造性・コミュニケーションなど）を取り上げた。また「舞踊教育法実習中等教育」では、創作ダンスの指導力とは何かを理解し、指導力を身につけるために、数人のグループに分かれて言葉かけの実習に力を入れた。また毎時間の授業記録を求めた。その結果、授業記録から、自らが創って踊る力を指導にどのように生かしていけばよいのかを考える態度が養われていることがうかがわれた。

大学院教育：

大学院前期課程1名、後期課程2名の院生を指導し、修士論文の指導を担当した。

Undergraduate Teaching.

Initially, I taught two classes: "Study of Theater Dance" and "Seminar. Study of Theater Dance." The students were presented a general overview concerning the prehistory and history of Theater Dance. My teachings explained how theater dance had been related to other arts, pointing to the background of social phenomena in each period, what messages dance had conveyed, and how they had been taken in relation to the other arts. In my seminar I gave lectures based on the following key words: body, Kansei, image, creativity, and communication. This was done in order for students to better grasp their current situation, to study the relation between humans and dance from all angles, and to be able to view dance from a variety of perspectives.

Additionally, I taught the class "Teaching Method in Dance Education." Here I placed emphasis on the practice of how to address dividing a few students into groups, so that students could understand what leadership is like, and how they can acquire leadership qualities. I required students to record all my classes, and as a result, I could see the students develop a stronger attitude by trying to make use of their own creative dancing ability.

Graduate Teaching.

I taught 3 graduate students (one belongs to master course, two belong to doctoral course. My only involvement consisted of teaching one master thesis.

◆研究計画

1. 舞踊の記憶に焦点をあて、エスノグラフィーを用いて舞踊による感性教育の意義と指導方法に関する研究を進める。
2. 自己理解・他者理解としての舞踊の特質を、体感・鏡像・場といった概念によって考察し、そこから舞踊教育、ダンスセラピーなどの指導における臨床的な舞踊の場づくりを実践的に研究する。
3. 脳科学者と共同で舞踊と脳科学に関する研究に着手した。
4. 工学者と共同で、舞踊における共創に関する実験プランを構想しており、2008年度中には、実験を開始する予定である。

◆メッセージ

本学の舞踊教育学コースは、日本の国立大学法人で舞踊教育学を専門に学ぶことのできる唯一のコースです。舞踊に関する様々な知識と舞踊実技をバランスよく学びます。舞踊に対する知識が、舞踊創作や鑑賞の力を養い、また自らの舞踊経験が、舞踊に対する学問的なまなざしを拓きます。

受験生はきっと「上手になりたい」という強い思いをもっていると思います。しかし、上手くなるには創る技術・踊る技術だけを追うのではなく、「なぜ、上手になりたいのか」「上手くなるとはどういうことなのか」という疑問を持つことが大切です。そのことを考えていくプロセスは、自分自身の向上のみならず、将来、指導者として指導する際の手がかりを得ていく過程でもあります。

創り・踊りつつ、自分の舞踊活動に問いを立てそのこたえを探求する、そして、その探求が次の創作への力となる、このダイナミックな循環、この醍醐味を体感しませんか。